

建築物の設計における成果図書の作成を目的とした
BIM データ入力の方法
建築設計三会(第1版)

令和8年3月

建築設計三会 設計BIMワークフロー検討委員会
(日本建築士会連合会・日本建築士事務所協会連合会・日本建築家協会)

目 次

1. はじめに.....	1
2. 各ステージの意匠・構造・電気・設備のB I Mデータ入力の方法.....	4
2-1. 建築物の設計における成果図書の作成を目的としたB I M データ入力の考え方.....	4
2-2. 基本設計におけるB I M データ入力の方法.....	7
2-3. 実施設計におけるB I M データ入力の方法.....	10
3. 建築物の設計における成果図書の作成を目的としたオブジェクト別のモデリングガイド....	16
3-1. 空間要素オブジェクトのモデリングガイド	17
3-2. 意匠要素オブジェクトのモデリングガイド	18
3-3. 構造要素オブジェクトのモデリングガイド	29
3-4. 電気設備要素オブジェクトのモデリングガイド	40
3-5. 機械設備要素オブジェクトのモデリングガイド	46
4. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(B I M業務仕様書)と BEP(B I M実行計画書)ひな型 (案)	62
4-1. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(BIM 業務仕様書) (案)	64
4-2. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BEP(BIM 実行計画書)ひな型 (案)	71

建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BIM データ入力の方法

1. はじめに

1) 本解説書の目的

「建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準」（令和 6 年国土交通省告示第 8 号）（以下「告示第 8 号」という。）においては、成果図書の作成方法（手書き・CAD・BIM など）については特に定められていませんが、本解説書では、別添一第 1 項「設計に関する標準業務」第一号「基本設計に関する標準業務」ロ及び同第二号「実施設計に関する標準業務」ロに規定される基本設計及び実施設計の「成果図書」の作成を目的とした場合の、BIM（Building Information Modeling）ソフトウェアの現状における一般的な活用方法として想定される、BIM データ入力の方法と、その方法を踏まえたモデリングガイド等を示しています。

設計者による自由な BIM の活用を前提として、柔軟で合理的な BIM の活用方法を提示することにより、BIM の普及を後押しすることを目的としています。

2) 「BIM を活用した設計等の業務」とは（CAD 等による図面作成との違い）

BIM は従来の CAD 等による図面作成とは異なり、三次元モデルと属性情報を統合的に取り扱うことが可能なデータ構築・管理手法です。BIM は単なる三次元モデルや図面作成のツールではなく、コンピューターが認識可能な建物データベースを構築することを本質的な目的の一つとしています。従来の設計業務では、専門知識を有する人間が設計者の意図を視覚的に判断しやすいように、図面という形式で表現し、伝えることが最も重要でした。一方、BIM は建築に関するデータを一元的に管理し、デジタルデータとして蓄積することで、コンピューターによるデータの検索・抽出・分析を可能とし、関係者間での効率的な情報共有を実現する点にもその重要な意義があります。

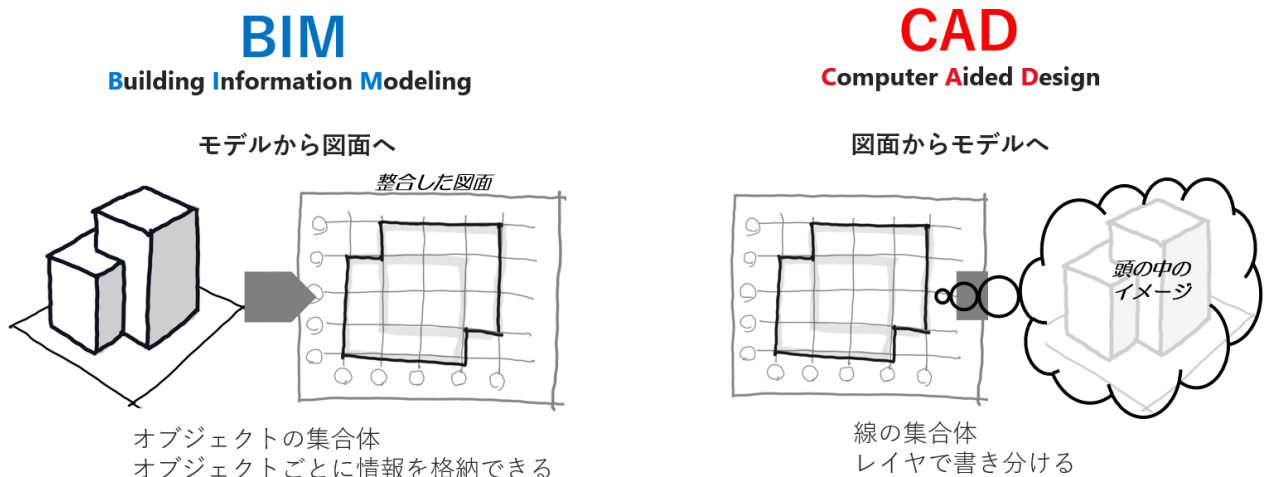
「建築確認申請でのデータ審査による効率化」、「施工段階での仮設計画や進捗管理でのデータ活用」、「竣工後の運用・維持管理でのデータ活用」の他、「建築業界の枠を超えたデータ活用」など、BIM データは設計だけでなく、建物のライフサイクル全体にわたって情報を活用できる仕組みとして、ますます重要性を増しています。

BIM モデルは、オブジェクトの集合体で構成され、それぞれのオブジェクトに属性情報を付与できるという特徴を有していますが、これが、従来の CAD がレイヤ分けされた線種の書き分けによって図面を直接作成していた手法と、本質的に異なる点です。

BIM による設計図書作成作業の流れは、従来の CAD 等による手法とは異なり、まず初めに建物の三次元モデルを構築し、当該 BIM モデルから平面図や立面図のベースとなる二次

元図面を切り出し、その後当該図面の体裁を整えるという手順になります。このように BIM モデルが先行することで、図面を読み解く専門知識が無くても内容を直感的に理解しやすくなり、関係者の合意形成の円滑化に繋げることが可能になります。

単一の BIM モデルから切り出した図面をベースとしているため、各種図面の整合性が確保されますが、そのままでは図面として判別しやすい状態になっておらず、線の重なりや寸法表示、ハッチングの調整など、人間が視認しやすいように体裁を整える作業を行って始めて成果図書として完成します。モデルを作成すれば自動的に図面が完成するわけではない点には注意が必要です。



3) 「BIM を活用した設計等の業務」の現状

現在、設計業務における BIM の活用状況は様々です。発注者から BIM の使用を指定される場合もありますが、設計者が自主的に BIM を導入するケースも増えており、作成される BIM データ自体にもばらつきがあります。

国土交通省の官庁営繕事業においては、「官庁営繕事業における BIM 活用ガイドライン」（平成 26 年 3 月 19 日国営施第 15 号（以下「ガイドライン」という。））に基づく BIM 活用に係る手続等として、『官庁営繕事業における BIM 活用実施要領』（令和 5 年 3 月 23 日 国営施第 28 号 最終改定 令和 6 年 3 月 21 日 国営施第 24 号）が定められており、同要領において設計業務における BIM 活用の要件である設計業務 EIR（Employer's Information Requirements）様式が示されています。そこでは、基本設計での外観及び内観(一部)の提示、実施設計での一般図作成と干渉チェック、BIM オリジナルファイル及び IFC の提出が指定項目で求められています。

このように、設計業務においては、求められる BIM 活用の程度がプロジェクトごとに大きく異なり、それに応じて設計者に求められる体制や作業量も変動しますので、発注者から BIM 使用が指定された場合は、その目的に応じて BIM データの入力範囲、成果物等について、発注者、受注者間で合意し取り交わす必要があります。

4) 「成果図書」を BIM で作成する場合の作業効率

BIM ソフトウェアを用いることで、必要な詳細度の 3D モデルを作成し、そのモデルの構成要素に属性情報を持たせた BIM データを作成することができます。前述のとおり BIM データは建物データベースとしての利用に非常に優れた価値を有しており、そういう意味で BIM ソフトウェアは非常に優れたツールであると言えます。

しかし、従来の成果図書の作成を念頭に置いた場合、BIM ソフトウェアは仕上表などのリスト形式の図面作成には強みがありますが、特に詳細図では 2 次元的に書き込む表現が多いため、2 次元の図表現に特化した従来の CAD ソフトの方が有利な面があります。日本国内で求められる成果図書の作成を BIM ソフトウェアだけで完結させることは、現段階においては、必ずしも効率的とは言えません。この点が、国内で BIM の普及が進みにくい要因の一つとなっています。

5) 目的に応じた BIM データへの入力情報

設計段階で BIM データへの入力を行う情報は、成果図書を作成するための情報にとどまらず、建築生産プロセス全体の高度化や他分野との連携など、様々な目的に応じて異なります。

例えば、カーボンニュートラル実現に向けたホールライフカーボン算出や、ZEB 実現に向けた省エネ性能算出を効率的に行うための情報、竣工後の運用・維持管理に必要な情報、PLATEAU[プラトール]へ連携するための情報などが考えられます。本解説書では、多様な活用の基礎となるデータ入力の共通理解が期待できます。

ただし、BIM データへの入力はその目的に応じて際限なく拡張できてしまうため、業務の目的に応じて求められるデータ入力については、個別に取り扱うことが必要です。

6) 「建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BIM データ入力の方法」

を作成する意図

令和 3 年 10 月に公開された「設計 BIM ワークフローガイドライン建築設計三会（第 1 版）」は、一貫したワークフローを実現するための「あるべき BIM データ」を作成することを目的として作成されています。ここでいう「あるべき BIM データ」とは、設計段階で作成した BIM モデルに、維持管理の段階で必要となる属性情報を追加し、建物の運用・管理にも対応可能と考えられるデータのことです。

第 1 版に対して本解説書は、当面、「建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BIM データ入力の方法」を示し、関係者の共通理解を図り、これを運用することで更に設計者が BIM に取り組みやすい環境の構築を目指しています。

2. 各ステージの意匠・構造・電気・設備のBIMデータ入力の方法

2-1. 建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の考え方

1) CDEにおける合理的なBIMの活用

今までは、BIMモデルにすべての情報を入力しCADからBIMに完全移行することが理想とされていましたが、近年ではBIM活用やCDE（共通データ環境）によるデータ共有が進展してきたことで、すべての情報をBIMデータに入力することが必ずしも合理的とはいえない状況です。よって、BIMデータで完結させるだけではなく、CDE上でBIMデータやCADデータ、BIMと連携した外部データなどを併用して取り扱うことが現実的です。

例えば、詳細図や系統図などの図面については、従来どおりCADで作成した方が効率的な場合が多く、建具表や機器表などについてもBIMのオブジェクトにすべてのパラメータを入力するのではなく、外部データとしてBIMデータと連携させる方が合理的な場合があります。

以上の考え方に基づき、入力情報については、「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」「BIMデータ入力が設計者の裁量である情報」に分けて示しています。ここで言う裁量とは、設計者が業務を合理的に進めるためにBIMへの入力範囲を自身で定めることを指します。

2) 設計者の裁量に幅を持たせた合理的なBIMの活用

成果図書作成を目的とした場合、断面図などは従来の成果図書においては代表的な断面のみを切り出して作成されることが一般的であったため、すべてのオブジェクトに三次元の高さ情報を入力することは、作業量の観点から過剰となる恐れがあります。よってモデルへの入力範囲は設計者の裁量によります。

BIMモデルを単純に切り出しただけでは、情報が過剰であったり、又は、不足していたり、不要な要素が表示されたりして、必ずしも見やすい図面になる訳ではないため、BIMソフトウェア上で2次元加筆を併用して修正して仕上げる方法があります。この際、BIMに適した図面体裁で許容されれば良いのですが、従来同様、紙での出力を前提とした白黒での図面体裁の調整や、図面枚数を絞り1枚の図面に様々な情報を詰め込むことなど、人間が視覚的に判断しやすい図面体裁が求められる場合には、BIMデータをCAD形式に書き出した上で、CADソフトで最終調整を行う方が合理的となる場合があります。よって、BIMソフトウェア上での2次元加筆の実施の有無も含めて設計者の裁量によります。

以上の考え方に基づき、次頁以降の2-2～2-3に基本設計および実施設計における成果図書作成に必要なBIMデータ入力の方法を、分野別に分けて示しています。このBIMへのデータ入力の方法については、設計者の裁量に幅を持たせた活用を前提としており、オブジェクトに形状情報や属性情報を入力して図面化するだけではなく、BIMソフトウェア上で線分

や文字など2次元加筆を加えて図面化することや、BIM データから書き出して CAD データで最終的に図面として取りまとめることも想定してまとめています。

3) 多様な活用の基礎となるデータ入力の方法

本解説書における BIM データ入力の方法については、主に平面系の図面作成におけるモデルおよびデータ入力が中心となっています。これらのデータは成果図書作成の目的に留まらず、データ利活用の観点からも建物データベースの骨格となる空間要素（部屋など）や、機器や建具などのアセット情報の基礎となるパラメータを含んでおり、データ活用目的に応じて詳細情報を追加するなど、後工程で必要情報を加えることで、様々なデータ利活用に繋げることができる有用な BIM データとなります。

また、建築確認における BIM 図面審査の内容に基本的に対応しており、審査の効率化・期間短縮が期待されます。BIM 図面審査で規定されている入出力基準のうち、少なくとも以下に示す基準に対応可能なものになっています。

意匠	意-001：敷地境界線、意-002：地盤面及び平均地盤面、意-003：方位、意-004：通り芯、意-005：各階基準線、意-006：外壁、意-007：間仕切壁、意-008：柱、意-009：各階の床・屋根・軒及びひさし等、意-011：開口部、意-012：各室の用途、意-013：建築面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式、意-014：床面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式、意-018：非常用の進入口等
構造	共通-001：通り芯、共通-002：各階基準線、RC-001：柱、RC-002：大ばり、RC-006：耐力壁、S-001：柱、S-002：大ばり、S-004：斜材
機械設備	機-002：通り芯、機-003：外壁、機-004：間仕切壁、機-005：柱、機-006：開口部、機-007：各室の用途、機-010：給気機及び排気機、機-011：排煙設備
電気設備	電-002：通り芯、電-003：外壁、電-004：間仕切壁、電-005：柱、電-006：開口部、電-007：各室の用途、電-009：非常用の照明装置

建築確認申請においては、区画図が主要な審査対象であることから、さらに、区画条件に関わる属性情報を加えることで、以下の入出力基準にも対応が可能になります。但し、建物の規模や種別によっては業務量が増大することもありますので、「BIM データ入力を推奨する情報」として位置付けています。

意匠	意-015：防火区画等（令第 112 条及び令第 114 条の規定）、意-016：防煙壁による区画(令第 126 条の 2 の規定)、意-017：防火設備等
機械設備	機-008：防火区画等(令第 112 条及び令第 114 条の規定)、

機-009：防煙壁による区画(令第126条の2の規定)

電気設備 電-008：防火区画等(令第112条及び令第114条の規定)

なお、建築確認におけるBIM図面審査の入出力基準に示された各項目について、本解説書で示しているBIM要素名と異なる場合の対応関係を、以下に整理して示す。

本解説書	入出力基準
レベル	各階
構造体に含まれない壁	間仕切壁
外部建具・内部建具	開口部
ブレース	斜材
空気調和機、全熱交換器、送風機	給気機及び排気機
非常用照明器具	非常用の照明装置

2-2. 基本設計におけるBIMデータ入力の方法

1) 意匠

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(1) 総合	① 計画説明書	任意	←	←	
	② 仕様概要表	任意	←	←	
	③ 仕上概要表	任意	←	←	
	④ 面積表及び求積図	空間	位置	面積	
		空間	位置・寸法	面積	求積図に用いる要素
	⑤ 敷地案内図	任意	←	←	
	⑥ 配置図	敷地境界線	位置	—	
		通り芯	位置	—	
		屋根	位置・寸法	—	
	⑦ 平面図（各階）	通り芯	位置	—	
		構造体(柱,耐力壁)	位置・寸法	—	
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	—	
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	—	
		外部建具・内部建具	位置・寸法・開き勝手	—	
		空間(部屋)	位置	室名	
	⑧ 断面図	通り芯	位置	—	
		レベル	位置	—	
		構造体(柱,耐力壁)	位置・寸法	—	
		構造体(梁,床(スラブ))	位置・寸法	—	
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	—	
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	—	
		外部建具・内部建具	位置・寸法・開き勝手	—	
	⑨ 立面図（各面）	通り芯	位置	—	
		レベル	位置	—	
		外壁	位置・寸法	種類 (CW/PC/RC/ALC)	
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	—	
		外部建具	位置・寸法・開き勝手	—	
	⑩ 工事費概算書	任意	←	←	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIMデータ入力設計者の裁量である情報」を示す。なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。
・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。（対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。）
・「任意」：BIM活用方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

2. 各ステージの意匠・構造・電気・設備のBIMデータ入力の方法
2-2. 基本設計におけるBIMデータ入力の方法

2) 構造

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(2)構造	① 構造計画説明書	任意	←	←	
	②構造設計概要書	任意	←	←	
	③工事費概算書	任意	←	←	

・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

3) 電気設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3)設備	①電気設備計画説明書	任意	←	←	
(i)電気設備	②電気設備設計概要書	任意	←	←	
	③工事費概算書	任意	←	←	
	④各種技術資料	任意	←	←	

・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

4) 給排水衛生設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3)設備	①給排水衛生設備計画説明書	任意	←	←	
(ii)給排水衛生設備	②給排水衛生設備設計概要書	任意	←	←	
	③工事費概算書	任意	←	←	
	④各種技術資料	任意	←	←	

・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

5) 空調換気設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3) 設備	①空調換気設備計画説明書	任意	←	←	
(iii) 空調換気設備	②空調換気設備設計概要書	任意	←	←	
	③工事費概算書	任意	←	←	
	④各種技術資料	任意	←	←	

・「任意」：BIM活用方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

6) 昇降機等設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3) 設備	①昇降機等設備計画説明書	任意	←	←	
(iv) 昇降機等	②昇降機等設備設計概要書	任意	←	←	
	③工事費概算書	任意	←	←	
	④各種技術資料	任意	←	←	

・「任意」：BIM活用方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

2-3. 実施設計におけるBIMデータ入力の方法

1) 意匠

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(1)総合	① 建築物概要書	任意	≡	≡	
	② 仕様書	任意	≡	≡	
	③ 仕上表(内部)	空間	位置	室名・天井高 ・仕上・設計条件	
	仕上表(外部)	任意	≡	≡	
	④面積表及び	空間	位置	面積	
	求積図	空間	位置・寸法	面積	求積図に用いる要素
	⑤敷地案内図	任意	≡	≡	
	⑥ 配置図	敷地境界線	位置	—	
		通り芯	位置	—	
		屋根	位置・寸法	—	
		敷地の工作物等(主要な歩道、車道、駐 車場、工作物等)	位置・寸法	種類	
	⑦ 平面図 (各階)	通り芯	位置	—	
		構造体(柱,耐力壁)	位置・寸法	区画条件	
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	設計仕様・区画条件	
		外部建具・内部建具	位置・寸法・開き勝手	—	
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	種類(S/RC)・設計仕様	
		階段	位置・寸法	種類(S/RC)・設計仕様	
		EVシャフト	位置・寸法	—	
		附属物等	位置・寸法	種類	
	⑧ 断面図	空間(部屋)	位置	室名	
		通り芯	位置	—	
		レベル	位置	—	
		構造体(柱,耐力壁)	位置・寸法	区画条件	
		構造体(梁,床(スラブ))	位置・寸法	区画条件	
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	区画条件	
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	—	
		外部建具・内部建具	位置・寸法・開き勝手	—	
	⑨ 立面図 (各面)	天井	位置・寸法	—	
		通り芯	位置	—	
		レベル	位置	—	
		外壁	位置・寸法	種類(CW/PC/RC/ALC) ・区画条件	
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	種類(S/RC) ・設計仕様	
	⑩ 矩計図	外部建具	位置・寸法・開き勝手	—	
		任意	≡	≡	
	⑪ 展開図	任意	≡	≡	
	⑫ 天井伏図 (各階)	任意	≡	≡	
	⑬ 平面詳細図	任意	≡	≡	
	⑭ 部分詳細図	任意	≡	≡	
	⑮ 建具表	外部建具・内部建具	位置	建具符号・設計仕様・ 区画条件	
	建具キープラン	通り芯	位置	—	
		構造体(柱,耐力壁)	位置・寸法	—	
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	—	
		外部建具・内部建具	位置・寸法・開き勝手	建具符号	
		空間(部屋)	位置	室名	
	建具姿図	任意	≡	≡	
	⑯ 工事費概算書	任意	≡	≡	
	⑰ 各種計算書	任意	≡	≡	
	⑱ その他確認申請に 必要な図書	任意	≡	≡	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、**斜体**は「BIMデータ入力が設計者の裁量である情報」を、**斜体下線**は「BIMデータ入力を推奨する情報(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する情報)」を示す。

なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。

・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)

・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

2) 構造

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(2)構造	① 仕様書	任意	←	←	
	② 構造基準図	任意	←	←	
	③ 伏図（各階）	通り芯	位置	—	
		柱,大梁,耐力壁,ブレース	位置・寸法	断面名称	
		小梁,スラブ,基礎等	位置・寸法	断面名称	
	④ 軸組図	通り芯	位置	—	
		レベル	位置	—	
		柱,大梁,耐力壁,ブレース	位置・寸法	断面名称	
		小梁,スラブ,基礎等	位置・寸法	断面名称	
	⑤ 部材断面表	柱,大梁,耐力壁,ブレース	—	断面寸法・配筋・材料等	
		小梁,スラブ,基礎等	—	断面寸法・配筋・材料等	
	⑥ 部分詳細図	任意	←	←	
	⑦ 構造計算書	任意	←	←	
	⑧ 工事費概算書	任意	←	←	
	⑨ その他確認申請に必要な図書	任意	←	←	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIMデータ入力が設計者の裁量である情報」を示す。なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。
・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。（対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。）
・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

2. 各ステージの意匠・構造・電気・設備のBIMデータ入力の方法
2-3. 実施設計におけるBIMデータ入力の方法

3) 電気

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3) 設備 (i) 電気設備	① 仕様書	任意	≡	≡	
	② 敷地案内図	任意	≡	≡	
	③ 配置図	任意	≡	≡	
	④ 受変電設備図	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
	⑤ 非常電源設備図	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
	⑥ 幹線系統図	任意	≡	≡	
	⑦ 電灯、コンセント 設備平面図（各階）	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具(非常用照明器具)	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具(照明器具、コンセント)	位置・寸法	機番・設計仕様	
		幹線(ケーブルラック、配管)	位置・寸法	用途	
	⑧ 動力設備平面図 （各階）	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
		幹線(ケーブルラック、配管)	位置・寸法	用途	
	⑨ 通信・情報設備系 統図	任意	≡	≡	
	⑩ 通信・情報設備平 面図（各階）	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具	位置	機番・設計仕様	
		幹線(ケーブルラック、配管)	位置・寸法	用途	
	⑪ 火災報知等設備系 統図	任意	≡	≡	
	⑫ 火災報知等設備平 面図（各階）	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具	位置	機番・設計仕様	
		幹線(ケーブルラック、配管)	位置・寸法	用途	
	⑬ その他設置設備設 計図	任意	≡	≡	
	⑭ 屋外設備図	機器・盤類	位置・寸法	機番・設計仕様	
		幹線(ケーブルラック、配管)	位置・寸法	用途	
	⑮ 工事費概算書	任意	≡	≡	
	⑯ 各種計算書	任意	≡	≡	
	⑰ その他確認申請に 必要な図書	任意	≡	≡	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIMデータ入力が設計者の裁量である情報」を示す。なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。
・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。（対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。）
・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

4) 給排水衛生設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3)設備	① 仕様書	任意	←	←	
(ii)給排水衛生設備	② 敷地案内図	任意	←	←	
	③ 配置図	任意	←	←	
	④ 給排水衛生設備配管系統図	任意	←	←	
	⑤ 給排水衛生設備配管平面図（各階）	機器	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具(衛生器具)	位置	機番・設計仕様	
		配管(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
		バルブ等(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
	⑥ 消火設備系統図	任意	←	←	
	⑦ 消火設備平面図（各階）	機器	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具	位置	機番・設計仕様	
		配管(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
	⑧ 排水処理設備図	任意	←	←	
	⑨ その他設置設備設計図	任意	←	←	
	⑩ 部分詳細図	任意	←	←	
	⑪ 屋外設備図	任意	←	←	
	⑫ 工事費概算書	任意	←	←	
	⑬ 各種計算書	任意	←	←	
	⑭ その他確認申請に必要な図書	任意	←	←	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIMデータ入力が設計者の裁量である情報」を示す。なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。
・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。（対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。）
・「任意」：BIM活用の方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

2. 各ステージの意匠・構造・電気・設備のBIMデータ入力の方法
2-3. 実施設計におけるBIMデータ入力の方法

5) 空調換気設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3)設備 (iii)空調換気設備	① 仕様書	任意	←	←	
	② 敷地案内図	任意	←	←	
	③ 配置図	任意	←	←	
	④ 空調設備系統図	任意	←	←	
	⑤ 空調設備平面図 (各階)	機器	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具(制気口類)	位置	機番・設計仕様	
		ダクト(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
		ダンパー等(区画貫通部等の主要部)	位置・寸法	用途・設計仕様	
		配管(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
		バルブ等(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
	⑥ 換気設備系統図	任意	←	←	
	⑦ 換気設備平面図 (各階)	機器	位置・寸法	機番・設計仕様	
		器具(制気口類)	位置	機番・設計仕様	
		ダクト(フランジ・保温等を除く)	位置・寸法	用途・設計仕様	
		ダンパー等(区画貫通部等の主要部)	位置・寸法	用途・設計仕様	
	⑧ その他設置設備設計図	任意	←	←	
	⑨ 部分詳細図	任意	←	←	
	⑩ 屋外設備図	任意	←	←	
	⑪ 工事費概算書	任意	←	←	
	⑫ 各種計算書	任意	←	←	
	⑬ その他確認申請に必要な図書	任意	←	←	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIMデータ入力が設計者の裁量である情報」を示す。なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。
・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)
・「任意」：BIM活用方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

6) 昇降機等設備

		BIM			備考
		要素	形状情報	属性情報	
(3)設備	① 仕様書	任意	←	←	
(iv)昇降機等	② 敷地案内図	任意	←	←	
	③ 配置図	任意	←	←	
	④ 昇降機等平面図	任意	←	←	
	⑤ 昇降機等断面図	任意	←	←	
	⑥ 部分詳細図	任意	←	←	
	⑦ 工事費概算書	任意	←	←	
	⑧ 各種計算書	任意	←	←	
	⑨ その他確認申請に必要な図書	任意	←	←	

注) ・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIMデータ入力設計者の裁量である情報」を示す。なお、属性情報の具体的な入力内容については、EIR・BEP等で協議の上決定する必要がある。
・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)
・「任意」：BIM活用方法・範囲が設計者の裁量である成果図書を示す。

3. 建築物の設計における成果図書の作成を目的としたオブジェクト別のモデリングガイド

「2.各ステージの意匠・構造・電気・設備のB I Mデータ入力の方法」では、各ステージの成果図書に対して必要となるB I Mによるデータ入力の方法について分野別に整理しましたが、実際にはオブジェクトのレベルにまで落とし込まなければ、いつ、どのような詳細度で、どのような属性情報をB I Mに入力し確認すれば良いか、を取り決めることは困難です。そのため、ここからは、基本設計・実施設計各ステージでモデリングする内容の一例をオブジェクト別に解説します。

表 3-1 オブジェクト別のモデリングガイドに記載する代表的なオブジェクトリスト

空間要素オブジェクト	意匠要素オブジェクト	構造要素オブジェクト	
空間要素	構造体(意匠柱、耐力壁)	RC 柱	鉄骨柱
	構造体(梁、床(スラブ))	RC 大梁	鉄骨大梁
	構造体に含まれない壁	RC 小梁	鉄骨小梁
	屋根、ひさし、バルコニー	スラブ	ブレース
	階段	耐力壁	
	EV シャフト	雑壁	
	外装	基礎	
	外部建具		
	内部建具		
	天井		
	敷地の工作物等(主要な歩道、車道、駐輪場、工作物等)		
電気設備要素オブジェクト	機械設備要素オブジェクト		
空間要素	空間要素	衛生器具	
機器・盤類(受変電、電力貯蔵、発電機、盤)	熱源設備(冷凍機・ボイラー等)	制気口類	
照明器具	空気調和機(空調機)	ダクト	
非常用照明器具	パッケージ形空調機(室外機)	ダンパー	
その他器具	パッケージ形空調機(室内機)	配管	
幹線(ケーブルラック、配管)	全熱交換器	バルブ類	
	送風機・排煙機		
	ポンプ(空調用、給水、消火、水中)		
	受水タンク		
	給湯機		

3-1. 空間要素オブジェクトのモデリングガイド

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
寸法 (壁等の部屋の境界 を基に形状配置)	●	仮設定	●	確定		
属性情報						
設計条件	○	確定		⇒		⇒
部屋番号	○	仮設定	○	確定		⇒
階	○	仮設定	●	確定		⇒
部屋名	○	仮設定	●	確定		⇒
面積	○	仮設定	●	確定		⇒
天井高	○	仮設定	○	確定		⇒
床高さ	○	仮設定	○	確定		⇒
仕上げ情報	○	仮設定	○	確定		⇒
建築基準法上 の用途	○	仮設定	○	確定		⇒
排煙種別	○	仮設定	○	確定		⇒
無窓居室	○	仮設定	○	確定		⇒
積載荷重	○	仮設定	○	確定		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

3-2. 意匠要素オブジェクトのモデリングガイド

1) 構造体(意匠柱、耐力壁)

		S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報				
設置位置	●	仮設定	●	確定 ⇒
高さ	●	仮設定	●	確定 ⇒
幅	●	仮設定	●	確定 ⇒
厚さ※ (耐力壁の場合)	●	仮設定	●	確定 ⇒
フカシ	○	仮設定	○	確定 ⇒
断面形状、構成	○	仮設定	○	確定 ⇒
属性情報				
壁符号 (耐力壁の場合)	○	仮設定	○	確定 ⇒
防火性能(区画条件) (耐力壁の場合)	○	仮設定	●	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ●・・・BIMデータ入力を推奨する項目 (確認申請の主要な審査対象である区画図に関する項目) ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 ※「厚さ」は、対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。				

2) 構造体(梁、床(スラブ))

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	○	仮設定	○	確定		⇒
高さ	○	仮設定	○	確定		⇒
幅	○	仮設定	○	確定		⇒
厚さ※ (床の場合)	○	仮設定	○	確定		⇒
寄り (梁の場合)	○	仮設定	○	確定		⇒
断面形状、構成	○	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
防火性能(区画条件) (床の場合)	○	仮設定	●	確定		⇒

【凡例】

●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目

●・・・BIMデータ入力を推奨する項目
(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する項目)

○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目

仮設定・・・仮の値を入力する。

確定・・・確定した値を入力する。

※「厚さ」は、対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。

3) 構造体に含まれない壁

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
高さ	○	仮設定	○	確定		⇒
厚さ※	●	仮設定	●	確定		⇒
断面形状、構成	○	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
壁符号			○	仮設定	○	確定
防火性能(区画条件)	○	仮設定	●	確定		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ●・・・BIMデータ入力を推奨する項目 (確認申請の主要な審査対象である区画図に関する項目) ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 ※「厚さ」は、対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。						

4) 屋根、ひさし、バルコニー

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
幅	●	仮設定	●	確定		⇒
奥行き	●	仮設定	●	確定		⇒
属性情報						
種類	○	仮設定	○	確定		⇒
仕上げ			○	確定		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

5) 階段

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
寸法 (壁等の部屋の境界 を基に形状配置)	●	仮設定	●	確定		⇒
属性情報						
種類	○	確定		⇒		⇒
昇降方向	○	確定		⇒		⇒
踏面	○	確定		⇒		⇒
蹴上	○	仮設定	○	確定		⇒
階段の幅	○	仮設定	○	確定		⇒
注) ・ 階段は、2Dオブジェクトで作成する場合もある						
【凡例】						
●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目						
○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目						
仮設定・・・仮の値を入力する。						
確定・・・確定した値を入力する。						

6) EV シャフト

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
かご（平面形状）	●	仮設定	●	確定		⇒
属性情報						
昇降路有効寸法	○	仮設定	○	確定		⇒
オーバーヘッド	○	仮設定	○	確定		⇒
EVピット	○	仮設定	○	確定		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

7) 外装

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
高さ	●	仮設定	●	確定		⇒
厚さ※	●	仮設定	●	確定		⇒
壁構成	○	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
種類	○	仮設定	○	確定		⇒
防火性能(区画条件)	○	仮設定	●	確定		⇒

【凡例】

●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目

●・・・BIMデータ入力を推奨する項目

(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する項目)

○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目

仮設定・・・仮の値を入力する。

確定・・・確定した値を入力する。

※「厚さ」は、対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。

8) 外部建具

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●	仮設定	●	確定		⇒
幅	●	仮設定	●	確定		⇒
高さ	●	仮設定	●	確定		⇒
形式	○	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
建具種別			●	仮設定	●	確定
建具番号			●	仮設定	●	確定
姿図番号			○	仮設定	○	確定
防火性能(区画条件)			○	仮設定	●	確定
枠 (形状、仕上、見込)			○	仮設定*	○	確定*
ガラス 種類と厚さ			○	仮設定*	○	確定*
ガラリ (開口率、形式、有効 開口面積)			○	仮設定*	○	確定*
膳板、額縁、水切板 (材質、仕上、寸法)			○	仮設定*	○	確定*

【凡例】

●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目

●・・・BIMデータ入力を推奨する項目
(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する項目)

○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目

仮設定・・・仮の値を入力する。

確定・・・確定した値を入力する。

* ...特記仕様書や建具共通事項により規定する場合もある。

9) 内部建具

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	●※	仮設定	●	確定		⇒
幅	●※	仮設定	●	確定		⇒
高さ	●※	仮設定	●	確定		⇒
形式	○※	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
建具種別			●	仮設定	●	確定
建具番号			●	仮設定	●	確定
姿図番号			○	仮設定	○	確定
防火性能(区画条件)			○	仮設定	●	確定
枠、脊、扉 (形状、材質、見込、仕上、厚み)			○	仮設定*	○	確定*
ガラス (種別・厚さ、寸法)			○	仮設定*	○	確定*
ハンドル、錠形式			○	仮設定*	○	確定*

【凡例】

●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目

●・・・BIMデータ入力を推奨する項目
(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する項目)

○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目

仮設定・・・仮の値を入力する。

確定・・・確定した値を入力する。

*・・・特記仕様書や建具共通事項により規定する場合もある。

10) 天井

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	○	仮設定	○	確定		⇒
設置高さ	○	仮設定	○	確定		⇒
平面形状	○	仮設定	○	確定		⇒
厚さ (干渉チェックに必要な程度)			○	確定		⇒
属性情報						
断面構成			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

11) 敷地の工作物等(主要な歩道、車道、駐輪場、工作物等)

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
設置位置	○	仮設定	○	確定		⇒
平面形状	○	仮設定	○	確定		⇒
高さ	○	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
名称			○	仮設定	○	確定
種別			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

3-3. 構造要素オブジェクトのモデリングガイド

1) RC 柱

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
位置		●	仮設定
寄り		●	仮設定
柱頭・柱脚の伸縮		●	仮設定
せい		●	仮設定
幅		●	仮設定
属性情報			
断面名称		●	仮設定
所属階		●	確定
材料(コンクリート、鉄筋)		○	参考値
主筋(径、本数、配置 情報)		○	仮設定
帯筋(径、本数、ピッチ、 種別、配置情報)		○	仮設定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

2) RC 大梁

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			●	仮設定	●	確定
レベル			●	仮設定	●	確定
寄り			●	仮設定	●	確定
せい			●	仮設定	●	確定
幅			●	仮設定	●	確定
属性情報						
断面名称			●	仮設定	●	確定
所属階			●	確定		⇒
梁の種別			●	確定		⇒
材料(コンクリート、鉄筋)			○	参考値		⇒
主筋(径、本数、配置 情報)			○	仮設定	○	確定
あばら筋(径、本数、 ピッチ、種別、配置情 報)			○	仮設定	○	確定
腹筋			○	仮設定	○	確定
【凡例】						
●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目						
○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目						
仮設定・・・仮の値を入力する。						
確定・・・確定した値を入力する。						
参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

3) RC 小梁

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			○	仮設定	○	確定
レベル			○	仮設定	○	確定
寄り			○	仮設定	○	確定
せい			○	仮設定	○	確定
幅			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			○	仮設定	○	確定
梁の種別			○	確定		⇒
材料(コンクリート、鉄筋)			○	参考値		⇒
主筋(径、本数、配置 情報)			○	仮設定	○	確定
あばら筋(径、本数、 ピッチ、種別、配置情 報)			○	仮設定	○	確定
腹筋			○	仮設定	○	確定
【凡例】						
●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目						
○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目						
仮設定・・・仮の値を入力する。						
確定・・・確定した値を入力する。						
参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

4) スラブ

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			○	仮設定	○	確定
厚さ			○	仮設定	○	確定
レベル			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			○	仮設定	○	確定
材料(コンクリート、鉄筋)			○	参考値		⇒
鉄筋(径、ピッチ)			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

5) 耐力壁

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			●	仮設定	●	確定
厚さ			●	仮設定	●	確定
開口(位置、寸法、回転角)			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			●	仮設定	●	確定
耐力区分(耐力壁、雑壁など)			●	確定		⇒
材料(コンクリート、鉄筋)			○	参考値		⇒
鉄筋(径、ピッチ)			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

6) 雑壁

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
位置		○	仮設定
厚さ		○	仮設定
開口(位置、寸法、回転角)		○	仮設定
形状情報			
断面名称		○	仮設定
耐力区分(耐力壁、雑壁など)		○	確定
材料(コンクリート、鉄筋)		○	参考値
鉄筋(径、ピッチ)		○	仮設定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

7) 基礎

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			○	仮設定	○	確定
レベル			○	仮設定	○	確定
せい			○	仮設定	○	確定
幅			○	仮設定	○	確定
回転角			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			○	仮設定	○	確定
材料(コンクリート、鉄筋)			○	参考値		⇒
鉄筋(径、ピッチ)			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

8) 鉄骨柱

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			●	仮設定	●	確定
寄り			●	仮設定	●	確定
柱頭・柱脚の伸縮			●	仮設定	●	確定
鉄骨形状(H形,角形, 円形等			●	仮設定	●	確定
せい			●	仮設定	●	確定
幅			●	仮設定	●	確定
板厚			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			●	仮設定	●	確定
所属階			●	確定		⇒
材料(鉄骨、コンクリート(CFT))			○	参考値		⇒
継手			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

9) 鉄骨大梁

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			●	仮設定	●	確定
レベル			●	仮設定	●	確定
寄り			●	仮設定	●	確定
せい			●	仮設定	●	確定
幅			●	仮設定	●	確定
板厚			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			●	仮設定	●	確定
所属階			●	確定		⇒
梁の種別			●	確定		⇒
材料(鉄骨)			○	参考値		⇒
継手			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

10) 鉄骨小梁

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			○	仮設定	○	確定
レベル			○	仮設定	○	確定
寄り			○	仮設定	○	確定
せい			○	仮設定	○	確定
幅			○	仮設定	○	確定
板厚			○	仮設定	○	確定
属性情報						
断面名称			○	仮設定	○	確定
梁の種別			○	確定		⇒
材料(鉄骨)			○	参考値		⇒
継手			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

11) プレース

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
位置			●	仮設定	●	確定
せい			●	仮設定	●	確定
幅			●	仮設定	●	確定
厚さ			●	仮設定	●	確定
属性情報						
断面名称			●	仮設定	●	確定
耐力区分			○	確定		⇒
材料			○	参考値		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

3-4. 電気設備要素オブジェクトのモデリングガイド

1) 空間要素

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
形状情報	○	確定	⇒
属性情報			
部屋番号	○	仮設定	⇒
階	○	仮設定	⇒
部屋名	○	仮設定	⇒
面積	○	仮設定	⇒
天井高	○	仮設定	⇒
電気諸元	○	確定	⇒
電源容量	○	確定	⇒
照度	○	確定	⇒
対象機器	○	仮設定	⇒
積算区分	○	仮設定	⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。			

2) 機器・盤類（受変電、電力貯蔵、発電機、盤）

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
外形寸法			○	参考値		⇒
据付位置			●	確定		⇒
属性情報						
積算上の科目			○	確定		⇒
呼称			○	確定		⇒
機番			●	確定		⇒
形式			○	確定		⇒
設置場所			○	確定		⇒
設備容量			○	仮設定	○	確定
電源種別			○	確定		⇒
材質			○	確定		⇒
詳細仕様			○	仮設定	○	確定
荷重			○	確定		

注) ・配線及び配線に係るサイズ、系統等の情報は、モデルと連動しない2D加筆により入力する。

【凡例】

●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目

○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目

仮設定・・・仮の値を入力する。

確定・・・確定した値を入力する。

参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。

3) 照明器具

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
据付位置			○	確定		⇒
属性情報						
積算上の科目			○	確定		⇒
呼称			○	確定		⇒
機番			○	確定		⇒
形式			○	確定		⇒
設置場所			○	確定		⇒
器具光束			○	確定		⇒
消費電力			○	確定		⇒
電源種別			○	確定		⇒
材質			○	確定		⇒
詳細仕様			○	確定		⇒
注) ・配線及び配線に係るサイズ、系統等の情報は、モデルと連動しない2D加筆により入力する。 【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

4) 非常用照明器具

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
据付位置					●	確定
属性情報						
積算上の科目					○	確定
呼称					○	確定
機番					●	確定
形式					○	確定
設置場所					○	確定
設置基準値					○	確定
消費電力					○	確定
電源種別					○	確定
材質					○	確定
詳細仕様					○	確定
注) ・配線及び配線に係るサイズ、系統等の情報は、モデルと連動しない2D加筆により入力する。 【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

5) その他器具

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
据付位置					○	確定
属性情報						
積算上の科目					○	確定
呼称					○	確定
機番					○	確定
形式					○	確定
設置場所					○	確定
設置基準値					○	確定
消費電力					○	確定
電源種別					○	確定
材質					○	確定
詳細仕様					○	確定
注) ・配線及び配線に係るサイズ、系統等の情報は、モデルと連動しない2D加筆により入力する。 【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

6) 幹線（ケーブルラック、配管）

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
サイズ			○	仮設定	○	確定
据付位置			○	仮設定	○	確定
属性情報						
積算上の科目			○	仮設定	○	確定
系統			○	仮設定	○	確定
用途			○	仮設定	○	確定
詳細仕様			○	仮設定	○	確定
注）・配線及び配線に係るサイズ、系統等の情報は、モデルと連動しない2D加筆により入力する。						
【凡例】						
●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目						
○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目						
仮設定・・・仮の値を入力する。						
確定・・・確定した値を入力する。						

3-5. 機械設備要素オブジェクトのモデリングガイド

1) 空間要素

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
形状情報	○	確定	⇒
属性情報			
部屋番号	○	仮設定	⇒
階	○	仮設定	⇒
部屋名	○	仮設定	⇒
面積	○	仮設定	⇒
天井高	○	仮設定	⇒
収容人員	○	仮設定	⇒
設備方式	○	確定	⇒
給排水条件	○	確定	⇒
消火設備	○	確定	⇒
設備諸元	○	確定	⇒
冷暖房負荷	○	仮設定	⇒
換気量	○	仮設定	⇒
エアバランス	○	仮設定	⇒
対象機器	○	仮設定	⇒
積算区分	○	仮設定	⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。			

2) 熱源設備(冷凍機・ボイラー等)

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (冷凍・加熱)		○	確定 ⇒
主要能力 (冷凍・加熱)		○	確定 ⇒
往還温度		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
ガス消費量		○	確定 ⇒
冷媒		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

3) 空気調和機(空調機)

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (風量・冷却・加熱)		○	確定 ⇒
主要能力 (風量・冷却・加熱)		○	確定 ⇒
往還温度		○	確定 ⇒
機外静圧		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

4) パッケージ形空調機(室外機)

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (冷房・暖房)		○	確定 ⇒
主要能力 (冷房・暖房)		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
ガス消費量 (GHPの場合)		○	確定 ⇒
冷媒		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

5) パッケージ形空調機(室内機)

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (冷房・暖房)		○	確定 ⇒
主要能力 (冷房・暖房)		○	確定 ⇒
機外静圧		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

6) 全熱交換器

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (風量)		○	確定 ⇒
主要能力 (風量)		○	確定 ⇒
機外静圧		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

7) 送風機・排煙機

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (風量)		○	確定 ⇒
主要能力 (風量)		○	確定 ⇒
機外静圧		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

8) ポンプ(空調用、給水、消火、水中)

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (流量)		○	確定 ⇒
主要能力 (流量)		○	確定 ⇒
揚程		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

9) 受水タンク

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
外形寸法			○	参考値		⇒
据付位置			●	確定		⇒
属性情報						
積算上の科目			○	確定		⇒
呼称			○	確定		⇒
機番			●	確定		⇒
形式			○	確定		⇒
系統			○	確定		⇒
設置場所			○	確定		⇒
設計必要能力 (容量)			○	確定		⇒
主要能力 (容量)			○	確定		⇒
材質			○	確定		⇒
詳細仕様			○	確定		⇒
荷重			○	確定		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

10) 給湯機

	S2 基本設計	S3 実施設計前半	S4 実施設計後半
形状情報			
外形寸法		○	参考値 ⇒
据付位置		●	確定 ⇒
属性情報			
積算上の科目		○	確定 ⇒
呼称		○	確定 ⇒
機番		●	確定 ⇒
形式		○	確定 ⇒
系統		○	確定 ⇒
設置場所		○	確定 ⇒
設計必要能力 (給湯)		○	確定 ⇒
主要能力 (給湯)		○	確定 ⇒
往還温度		○	確定 ⇒
電源情報		○	確定 ⇒
ガス消費量		○	確定 ⇒
材質		○	確定 ⇒
詳細仕様		○	確定 ⇒
許容騒音値		○	確定 ⇒
荷重		○	確定 ⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。			

11) 衛生器具

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
据付位置※	○	仮設定	○	確定		⇒
属性情報						
積算上の科目			○	確定		⇒
呼称			○	確定		⇒
機番			○	確定		⇒
形式			○	確定		⇒
設置場所			○	確定		⇒
電源情報			○	確定		⇒
材質			○	確定		⇒
詳細仕様			○	確定		⇒
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 ※意匠BIMモデルにオブジェクトを配置する場合もある。						

12) 制気口類

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
サイズ			○	仮設定	○	確定
据付位置			○	仮設定	○	確定
属性情報						
積算上の科目			○	仮設定	○	確定
呼称			○	仮設定	○	確定
符号			○	仮設定	○	確定
形式			○	仮設定	○	確定
設計必要能力 (風量)			○	仮設定	○	確定
風速			○	仮設定	○	確定
詳細仕様			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

13) ダクト

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
サイズ			○	仮設定	○	確定
据付位置			○	仮設定	○	確定
属性情報						
積算上の科目			○	仮設定	○	確定
系統			○	仮設定	○	確定
用途			○	仮設定	○	確定
材質			○	仮設定	○	確定
工法			○	仮設定	○	確定
圧力			○	仮設定	○	確定
保温材			○	仮設定	○	確定
外装材			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力が設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

14) ダンパー

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
外形寸法			○	参考値		⇒
サイズ			○	仮設定	○	確定
据付位置			○	仮設定	○	確定
属性情報						
積算上の科目			○	仮設定	○	確定
呼称			○	仮設定	○	確定
符号			○	仮設定	○	確定
系統			○	仮設定	○	確定
形式			○	仮設定	○	確定
材質			○	仮設定	○	確定
耐圧			○	仮設定	○	確定
詳細仕様			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。 参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

15) 配管

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
サイズ			○	仮設定	○	確定
据付位置			○	仮設定	○	確定
属性情報						
積算上の科目			○	仮設定	○	確定
系統			○	仮設定	○	確定
用途			○	仮設定	○	確定
材質			○	仮設定	○	確定
接合方法			○	仮設定	○	確定
耐圧			○	仮設定	○	確定
保温材			○	仮設定	○	確定
外装材			○	仮設定	○	確定
【凡例】 ●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目 ○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目 仮設定・・・仮の値を入力する。 確定・・・確定した値を入力する。						

16) バルブ類

	S2 基本設計		S3 実施設計前半		S4 実施設計後半	
形状情報						
外形寸法			○	参考値		⇒
サイズ			○	仮設定	○	確定
据付位置			○	仮設定	○	確定
形状情報						
積算上の科目			○	仮設定	○	確定
呼称			○	仮設定	○	確定
符号			○	仮設定	○	確定
系統			○	仮設定	○	確定
形式			○	仮設定	○	確定
材質			○	仮設定	○	確定
耐圧			○	仮設定	○	確定
接合方法			○	仮設定	○	確定
詳細仕様			○	仮設定	○	確定
【凡例】						
●・・・成果図書の作成を目的とし、現状、一般的にBIMデータ入力を行う項目						
○・・・BIMデータ入力設計者の裁量である項目						
仮設定・・・仮の値を入力する。						
確定・・・確定した値を入力する。						
参考値・・・設計図書に表現されないが、オブジェクトに値を入力する又は自動で入力される。						

4. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(B I M業務仕様書)と BEP(B I M実行計画書)ひな型 (案)

EIR (Employer's information requirements) : B I M業務仕様書

プロジェクトにおいて、発注者として求める業務委託仕様書の中で、B I Mに関する業務仕様を定めるものです。B I Mを活用するためのスケジュール、目的、システム要件、データ環境、会議体、各ステージに必要なB I Mデータの形状情報と仕様情報の詳細度、契約上の役割分担等を示し、BEP の作成を求める発注要件です。発注者により作成され、受注者選定や契約に先立って受注候補者に提示されるものをいいます。

BEP (B I M Execution Plan) : B I M実行計画書

プロジェクトにおいて、受注候補者が EIR に基づき、業務委託仕様書の中で、B I Mに関する業務仕様を提案するものです。B I Mを活用するための体制表、スケジュール、目的、システム要件、データ環境、会議体、各ステージに必要なB I Mデータの形状情報と仕様情報の詳細度等を定め文書化したものです。

受注候補者は、契約前に発注者と BEP に関する協議を行い、双方合意した上で受注者として契約を締結します。

EIR と BEP は、B I Mを活用する上で、発注者、受注者間の認識違い、手戻り等がないよう契約前に、発注者、受注者間で合意し、取り交わす必要があります。BEP の更新・変更があった場合には、双方協議の上、発注者、受注者間で合意し、再度取り交わす必要があります。

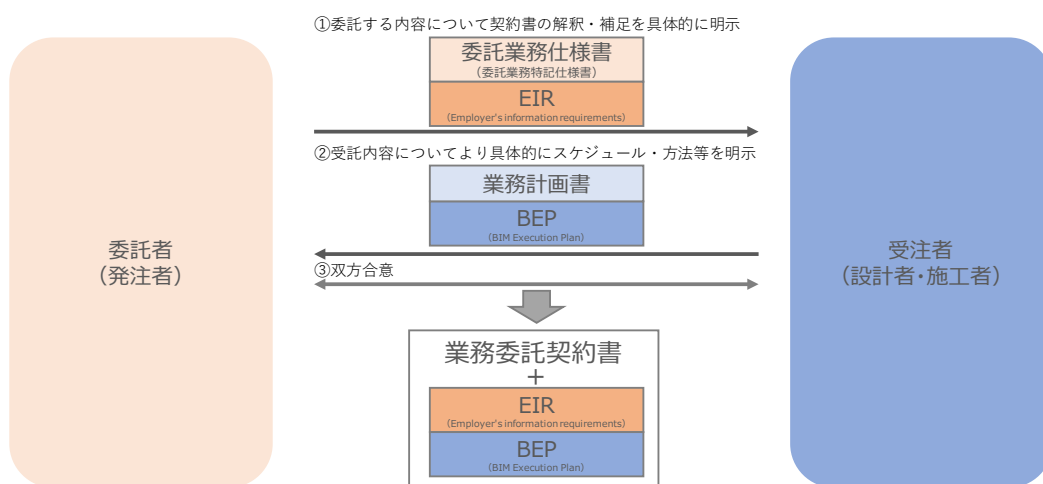


図 7-1 EIR と BEP の概略イメージ

「設計 BIM ワークフローガイドライン建築設計三会（第1版）」では、標準的な EIR（B I M業務仕様書）（案）と BEP（B I M実行計画書）のひな型（案）を示しています。現時点では、B I Mを活用する業務とB I Mを活用しない業務が混在することを考慮し、B I Mに関する事項で、業務委託仕様書（共通仕様書）に記載されていない事項を EIR、BEP に記

載することになっています。将来、B I M業務が主になった場合には、BEP と業務委託書は一つの書類となることも考えられます。

「設計 BIM ワークフローガイドライン建築設計三会(第1版)」では、中規模の業務ビルを想定し、標準的な項目としました。EIR(案)については、灰色字にて例示をしています。EIR(案)と BEP のひな型(案)は、用途や規模、B I M活用に対する目標設定及び業務内容に応じて、項目を追加・削除して使用してください。

4-1. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(BIM 業務仕様書) (案)

EIR(B I M業務仕様書)

本 EIR(B I M業務仕様書)は、当該プロジェクトの B I Mに関する業務の仕様を規定したものであり、B I Mに関する業務以外の仕様については、別添の当該プロジェクト業務委託仕様書による。

1. プロジェクト情報

案件名	〇〇〇〇設計業務
-----	----------

2. B I Mに関する業務

2.1 B I M実行計画書の作成

契約に先立って、次項及び別表 1「B I M関連成果納品物」の内容を含んだ B I M実行計画書を作成し、発注者と協議を行うこと。

B I M実行計画書は、契約後、業務内容に変更があった場合には、都度、発注者と協議の上、変更する。

2.2 B I Mデータの作成

本業務の受注者は、B I M実行計画書で定められた B I Mデータの作成を行う。

本業務において作成する BIM データ (3D の形状と仕様情報からなる BIM モデルと、BIM モデルから直接書き出した図書) 及び 2D 図書 (CAD で作図した 2D、及びプレゼンテーションソフトや表計算ソフト等で作成した図書) は、別表 1 に示す項目及び内容とするが、受注者からの提案により、項目、内容を追加することができる。

なお、2D 図書は、業務特記仕様書に基づき作成したものと兼用することができる。

BIM データの作成に用いる基幹ソフトウェアは、発注者と協議する。なお、構造、設備、各種シミュレーション、データ統合その他に基幹ソフトウェア以外のソフトウェアを併用することは妨げない。

2.3 B I M関連スケジュール

B I Mデータの確認スケジュールは以下を求める。

マイルストーン	予定日	関係者
S1 基本計画	****年**月**頃	O,A
S2 基本設計	****年**月**頃	O,A,S,E,M
S3 実施設計 1 (確定設計)	****年**月**頃	O,A,S,E,M
S4 実施設計 2 (詳細設計)	****年**月**頃	O,A,S,E,M

S5 施工受渡し	****年**月**頃	O,A,S,E,M
----------	-------------	-----------

2.4 B I Mの目的

本業務における B I M活用の目的は以下を求める。

B I Mの目的	B I M活用事項
維持管理での活用	FM システム (〇〇〇) に連携
発注者との合意形成	内観、外観デザインや仕様に関する確認と合意

3. B I M実行計画書

B I M実行計画書の作成にあたっては、以下の項及び別表 1 の内容を含むものとする。

3.1 基幹ソフトの種類とバージョン

基幹 B I Mソフトの種類 (名称)	基幹 B I Mソフトのバージョン
Autodesk Revit®	2020

3.2 基幹ソフト以外に使用するソフトの種類、バージョン、使用範囲・使用内容

ソフトの種類	ソフトのバージョン	使用範囲・使用内容
		建築可能範囲の確認

3.3 作業内容と参照図書

B I Mデータに関する納品物と成果内容については、EIR(B I Mに関する業務委託仕様書)に記載に基づき作成された、別紙 1「B I M関連納品物」による。その他、下記の図書を参考図書とする。

一般名	参考文献	バージョン
発注者仕様書	委託特記仕様書	
BIM ガイドライン	設計 B I Mワークフローガイドライン 建築設計三会	
	設計 B I Mワークフローガイドライン 資料. 建築設計三会カテゴリ別パラメータリスト	

3.4 データ共有環境

共有環境	目的
クラウドストレージ	BIM360 Docs
使用する環境	インターネットブラウザ (InternetExplorer、GoogleChrome 等)

3.5 B I M会議実施計画

会議名	出席者					頻度等
	管理技術者	建築	構造	電気設備	機械設備	
BIM キックオフ	○	○				1 回
BIM 調整	○	○	○	○	○	1 回/月
基本設計完了時	○	○	○	○	○	1 回
実施設計 1 完了時	○	○	○	○	○	1 回
実施設計 2 完了時	○	○	○	○	○	1 回
施工受渡し検討	○	○	○	○	○	1 回/月
施工受渡し時	○	○	○	○	○	1 回

3.6 B I Mモデルデータ構成他

※その他、上記（別表 1 を含む）又は参考書では、規定されていない B I Mデータの構成について、以下に記載する。

4. 成果物

4.1 B I Mモデル等の電子納品

- ・ B I Mデータ及び関連データは電子納品の対象とする。
- ・ 電子データは、DVD に格納する。
- ・ 格納する際の、フォルダ構成、命名規則は別途協議して定める。

4.2 データ形式

ファイル形式は以下とする。

B I Mデータ	IFC データ ネイティブデータ
関連データ (成果物の作成で利用した EIR で指定された関連データ)	BIM データ内に格納された PDF 及び DWG、JPEG

別表 1

【担当】A：建築設計 S：構造設計 E：電気設備設計 M：機械設備設計

(1) 基本設計段階

			基本設計段階	
			形状情報	属性情報
総合				
BIM	空間要素	空間(室、通路、ホール等)	位置・寸法	室名、面積
	意匠要素	基準線、地盤面、寸法線	位置	—
		構造体(意匠柱、耐力壁)	位置・寸法	—
		構造体(梁、床(スラブ))	位置・寸法	—
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	—
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	—
		階段	位置・寸法	—
		EVシャフト	位置・寸法	—
		外装	位置・寸法	種類 (CW/PC/RC/ALC)
		外部建具	位置・寸法、開き勝手	—
		内部建具	位置・寸法、開き勝手	—
		天井	位置・寸法	—
		附属物等	位置・寸法	—
		敷地の工作物等(主要な歩道、車道、駐車場、工作物等)	位置・寸法	—

注)・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的に BIM データ入力を行う情報」を、*斜体*は「BIM データ入力設計者の裁量である情報」を示す。

・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。

(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)

・担当欄の凡例は次のとおり。

A：総合、S：構造、E：電気設備、M：機械設備

(2) 実施設計段階

			実施設計段階	
			形状情報	属性情報
総合				
BIM	空間要素	空間（室、通路、ホール等）	位置・寸法	室名、面積、天井高、仕上、設計条件
	意匠要素	基準線、地盤面、寸法線	位置	－
		構造体（意匠柱、耐力壁）	位置・寸法	区画条件
		構造体（梁、床（スラブ））	位置・寸法	区画条件
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	区画条件
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	－
		階段	位置・寸法	－
		EV シャフト	位置・寸法	－
		外装	位置・寸法	種類 (CW/PC/RC/ALC)、 区画条件
		外部建具	位置・寸法、開き勝手	建具符号、設計仕様、 区画条件
		内部建具	位置・寸法、開き勝手	建具符号、設計仕様、 区画条件
		天井	位置・寸法	－
		附属物等	－	－
敷地の工作物等（主要な歩道、車道、駐車場、工作物等）	－	－		
構造				
BIM	構造要素	構造体（柱、大梁、耐力壁、ブレース）	位置・寸法	断面名称、設計仕様
		構造体（小梁、スラブ、基礎等）	位置・寸法	断面名称、設計仕様

注)・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的に BIM データ入力を行う情報」を、**斜体**は「BIM データ入力設計者の裁量である情報」を、**斜体下線**は「BIM データ入力を推奨する情報(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する情報)」を示す。

- ・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。
(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)
- ・担当欄の凡例は次のとおり。

A：総合、S：構造、E：電気設備、M：機械設備

4. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(B I M業務仕様書)と BEP(B I M実行計画書)ひな型 (案)

4-1. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(BIM 業務仕様書) (案)

				実施設計段階	
				形状情報	属性情報
電気設備					
BIM	空間要素	空間要素		位置・寸法	諸元情報、設計仕様
	電気設備要素	機器・盤類		位置・寸法	機番、設計仕様
		器具（照明設備）		位置	機番、設計仕様
		器具（非常用照明器具）		位置	機番、設計仕様
		器具（その他）		位置	機番、設計仕様
		幹線（ケーブルラック、配管）		位置・寸法	用途
機械設備					
BIM	空間要素	空間要素		位置・寸法	諸元情報、設計仕様
	機械設備要素	機器		位置・寸法	機番、設計仕様
		器具（衛生器具、制気口類）		位置	機番、設計仕様
		ダクト（フランジ・保温等を除く）		位置・寸法	用途、設計仕様
		ダンパー等（区画貫通部等の主要なダンパー）		位置・寸法	符号、設計仕様
		配管（フランジ・保温等を除く）		位置・寸法	用途、設計仕様
		バルブ等（フランジ・保温等を除く）		位置・寸法	符号、設計仕様

注)・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的に BIM データ入力を行う情報」を、**斜体**は「BIM データ入力設計者の裁量である情報」を示す。

・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。

(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)

・担当欄の凡例は次のとおり。

A：総合、S：構造、E：電気設備、M：機械設備

4-2. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BEP(BIM 実行計画書)ひな型 (案)

BEP(B I M実行計画書)

本 BEP(B I M実行計画書)は、当該プロジェクトの B I Mに関する業務の仕様を規定したものであり、B I Mに関する業務以外の仕様については、別添の当該プロジェクト業務委託契約書による。

1. プロジェクト情報

案件名	
-----	--

1.1 B I M関連体制表

※ 業務計画書等に、B I M関連担当者の記載がない場合には、別途、体制表を記載する。

※ B I Mデータにアクセスする可能性のある関係者（再委託に係る外部業務委託者も含む）も記載する。

※ B I Mデータに異常が起こった場合、緊急の連絡が必要になるため、各人の連絡先は必ず記載する。

1.2 B I M関連スケジュール

※ 業務計画書等の業務期間に加えて、B I Mモデルを確認するマイルストーンがある場合には、その内容と予定日を記載する。

マイルストーン	予定日	関係者

1.3 B I Mの目的

※ 業務計画書等の目的に加えて、B I M特有の目的がある場合には、記載する。

B I Mの目的	B I M活用事項

2. B I Mの活用

2.1 基幹ソフトの種類とバージョン

基幹B I Mソフトの種類 (名称)	基幹B I Mソフトのバージョン

2.2 基幹ソフト以外に使用するソフトの種類、バージョン、使用範囲・使用内容

ソフトの種類	ソフトのバージョン	使用範囲・使用内容

2.3 作業内容と参照図書

B I Mデータに関する成果物については、2.7「B I Mモデルデータの作成内容」を踏まえ作成するほか、EIR (B I M業務委託仕様書) (別紙1「B I M関連成果物」を含む) による。

以下の図書を参考図書とする。

一般名	参考文献	バージョン

2.4 データ共有環境

共有環境	目的

2.5 B I M会議実施計画

会議名	出席者					頻度等
	管理技術者	建築	構造	電気設備	機械設備	

2.6 B I Mモデルデータ構成他

※ その他、上記（別表 1 を含む）又は参考書では規定されていない B I Mデータの構成について、以下に記載する

項目	内容	記載場所

※記入例

基準点 : 配置基準点、建物基準点、高さ方向基準点、建物方向
 リンクファイル : 建築・構造・設備などのファイル構成
 ワークセット : 作業領域の区分
 グループ : モデルグループの使用箇所、命名規則
 フェーズ : フェーズの使用箇所（A 工事、B 工事、C 工事など）、命名規則
 ビュー構成・命名規則 : ビューとシートの構成、命名規則（管理番号）
 オブジェクトタイプ・命名規則 : オブジェクトタイプの構成、命名規則
 線種 : 線種・線の太さの設定、命名規則
 ハッチング種類 : ハッチングの種類、命名規則
 2D 加筆箇所 : 主な 2D 加筆箇所
 切断プロファイル : 切断プロファイル使用箇所
 その他ルール : 意匠上重要な視点からのパースや、納まりスケッチ等、設計意図伝達のためのビュー設定について、など

2.7 BIMモデルデータの作成内容

【担当】A：建築設計 S：構造設計 E：電気設備設計 M：機械設備設計

(1) 基本設計段階

			基本設計段階	
			形状情報	属性情報
総合				
BIM	空間要素	空間(室、通路、ホール等)	位置・寸法	室名、面積
	意匠要素	基準線、地盤面、寸法線	位置	—
		構造体(意匠柱、耐力壁)	位置・寸法	—
		構造体(梁、床(スラブ))	位置・寸法	—
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	—
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	—
		階段	位置・寸法	—
		EVシャフト	位置・寸法	—
		外装	位置・寸法	種類 (CW/PC/RC/ALC)
		外部建具	位置・寸法、開き勝手	—
		内部建具	位置・寸法、開き勝手	—
		天井	位置・寸法	—
		附属物等	位置・寸法	—
		敷地の工作物等(主要な歩道、車道、駐車場、工作物等)	位置・寸法	—

注)・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的に BIM データ入力を行う情報」を、**斜体**は「BIM データ入力設計者の裁量である情報」を示す。

・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。

(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)

・担当欄の凡例は次のとおり。

A：総合、S：構造、E：電気設備、M：機械設備

(2) 実施設計段階

			実施設計段階	
			形状情報	属性情報
総合				
BIM	空間要素	空間（室、通路、ホール等）	位置・寸法	室名、面積、天井高、仕上、設計条件
	意匠要素	基準線、地盤面、寸法線	位置	－
		構造体（意匠柱、耐力壁）	位置・寸法	区画条件
		構造体（梁、床（スラブ））	位置・寸法	区画条件
		構造体に含まれない壁	位置・寸法	区画条件
		屋根、ひさし、バルコニー	位置・寸法	－
		階段	位置・寸法	－
		EV シャフト	位置・寸法	－
		外装	位置・寸法	種類 (CW/PC/RC/ALC)、 区画条件
		外部建具	位置・寸法、開き勝手	建具符号、設計仕様、 区画条件
		内部建具	位置・寸法、開き勝手	建具符号、設計仕様、 区画条件
		天井	位置・寸法	－
		附属物等	－	－
敷地の工作物等（主要な歩道、車道、駐車場、工作物等）	－	－		
構造				
BIM	構造要素	構造体（柱、大梁、耐力壁、ブレース）	位置・寸法	断面名称、設計仕様
		構造体（小梁、スラブ、基礎等）	位置・寸法	断面名称、設計仕様

注)・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的に BIM データ入力を行う情報」を、**斜体**は「BIM データ入力設計者の裁量である情報」を、**斜体下線**は「BIM データ入力を推奨する情報(確認申請の主要な審査対象である区画図に関する情報)」を示す。

- ・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。
(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)
- ・担当欄の凡例は次のとおり。

A：総合、S：構造、E：電気設備、M：機械設備

4. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした EIR(B I M業務仕様書)と BEP(B I M実行計画書)ひな型 (案)

4-2. 建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BEP(BIM 実行計画書)ひな型 (案)

				実施設計段階	
				形状情報	属性情報
電気設備					
BIM	空間要素	空間要素		位置・寸法	諸元情報、設計仕様
	電気設備要素	機器・盤類		位置・寸法	機番、設計仕様
		器具（照明設備）		位置	機番、設計仕様
		器具（非常用照明器具）		位置	機番、設計仕様
		器具（その他）		位置	機番、設計仕様
		幹線（ケーブルラック、配管）		位置・寸法	用途
機械設備					
BIM	空間要素	空間要素		位置・寸法	諸元情報、設計仕様
	機械設備要素	機器		位置・寸法	機番、設計仕様
		器具（衛生器具、制気口類）		位置	機番、設計仕様
		ダクト（フランジ・保温等を除く）		位置・寸法	用途、設計仕様
		ダンパー等（区画貫通部等の主要なダンパー）		位置・寸法	符号、設計仕様
		配管（フランジ・保温等を除く）		位置・寸法	用途、設計仕様
		バルブ等（フランジ・保温等を除く）		位置・寸法	符号、設計仕様

注)・形状情報欄及び属性情報欄について、**太字**は「成果図書の作成を目的とし、現状、一般的に BIM データ入力を行う情報」を、**斜体**は「BIM データ入力設計者の裁量である情報」を示す。

・「寸法」：寸法線の記入ではなく、幅・奥行・高さなどを示す。

(対象となる成果図書の縮尺に合わせた詳細度とし、設計者の裁量に委ねる。)

・担当欄の凡例は次のとおり。

A：総合、S：構造、E：電気設備、M：機械設備

建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BIM データ入力の方法

建築設計三会(第1版)2026 年3月公開

建築設計三会 設計BIMワークフロー検討委員会

公益社団法人 日 本 建 築 士 会 連 合 会

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

公益社団法人 日 本 建 築 家 協 会